

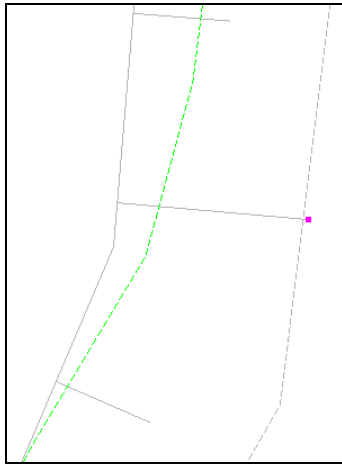
拡張 DM エディタ バージョン 2.24 更新記録

2009/02/26
有限会社ジオ・コーチ・システムズ
<http://www.geocoach.co.jp/>
info@geocoach.co.jp

1. 表現補助データチェック

新メニュー[チェック]-[表現補助データチェック]を追加しました。以下、説明書からの抜粋です。

人工斜面などのケバ・射影のある非対称記号(図形区分=99 表現補助データ)が射影部の上端線と下端線に囲まれていることをチェックします。分類コード別に射影部の上端線と下端線をつないだポリゴンを作成し、表現補助データのポリラインの点がポリゴンの中に入っていない場合をリストアップします。表現補助データのポリラインの始点と終点については、ポリゴンからわずかにはみ出している場合を許容することができます。ポリゴンから完全に外れている表現補助データは必ずリストアップします。従って、射影部の上端線と下端線が対になって端点で接続されていないと、ポリゴンができませんから、逆に、閉じていない上端線と下端線を検出することにもなります。



表現補助データチェック

対象分類コード

すべて

分類コードをリストで選択 選択...

分類コードをファイルで指定 指定...

対象の図形区分

98

99(表現補助データ)

オプション

オーバーシュート m以下

上端線と下端線からなるポリゴン確認のためにTINを表示する

OKリストCSV 指定...

OK キャンセル 設定を保存 設定を開く

【対象分類コード】人工斜面など、チェックする地物を分類コードで指定します。

【対象の図形区分】チェックするケバの図形区分を指定します。

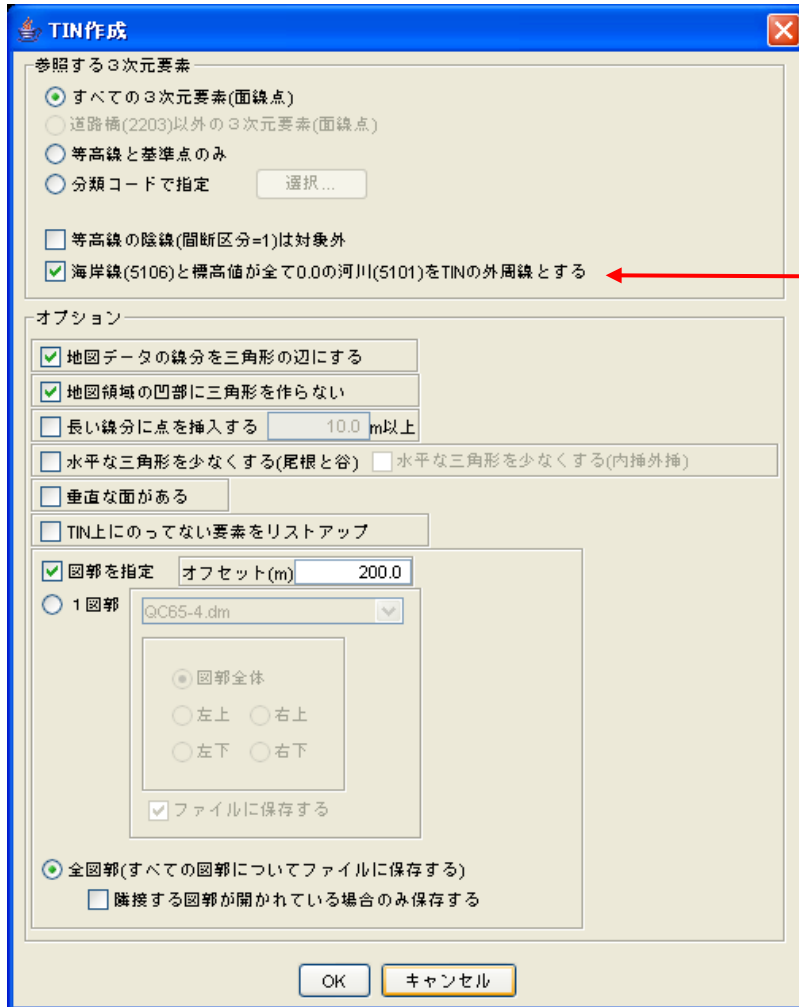
【オーバーシュート】表現補助データの始点と終点がポリゴンからはみ出してもいい距離を指定します。はみ出しがこの距離以下の場合、リストアップしません。

【上端線と下端線からなるポリゴン確認のためにTINを表示する】プログラムで内部的に射影部の上端線と下

端線をつないで、ポリゴンとし TIN を作成しています。表現補助データがその TIN の内側か外側化で判定しています。その TIN を確認のために表示します。射影部の上端線と下端線の端が離れていてポリゴンができずに、表現補助データがリストアップされるケースもあります。

2. TIN 作成

メニュー[TIN]-[TIN 作成]で、今までは海岸線(5106)と標高値が全て 0.0 の河川(5101)を地図データの境界として、その外側に TIN を作成しないようにしていましたが、これをオプションとしてダイアログで指定できるようにしました。



3. チェックリストの複数項目選択

「チェックリスト1」で、Ctrl や Shift キーを使って複数の項目を選択し、「OK」状態を切り替えできるようにしました。

